

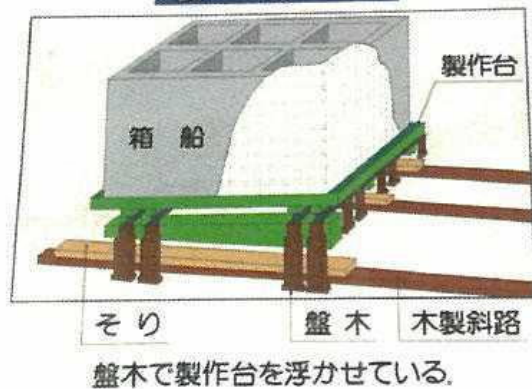
宮古港ケーソン(箱船)進水のあらかし

箱船製作台と箱船を海に運ぶ(進水)装置のしくみ

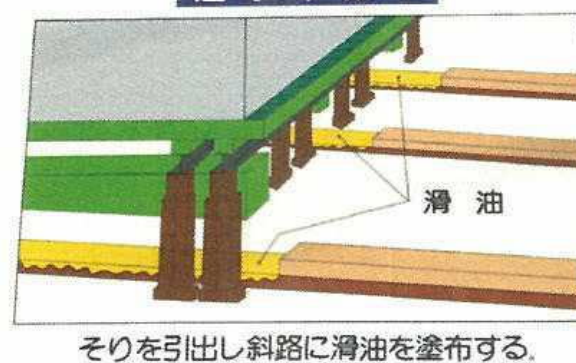
製作場の配置



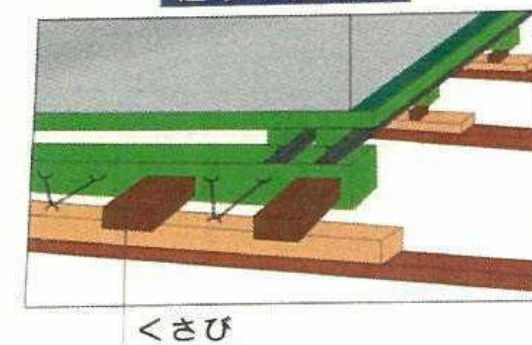
製作中



進水準備中

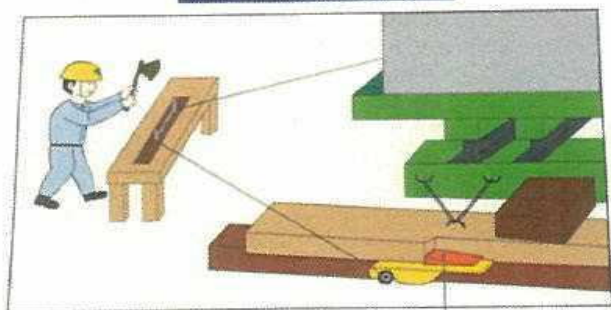


進水準備完了



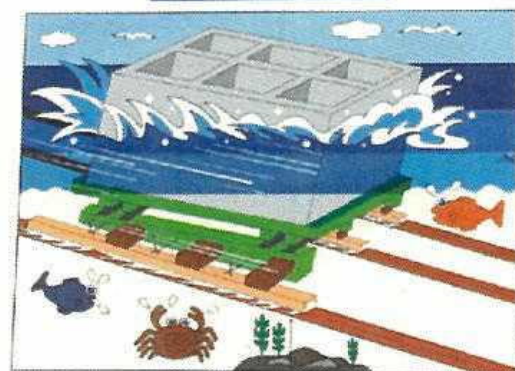
- ① そりをもとに戻す。
- ② 製作台とそりの間にくさびを打ち込み一体化させる。
- ③ 盤木を打ち崩す。

ロープカット

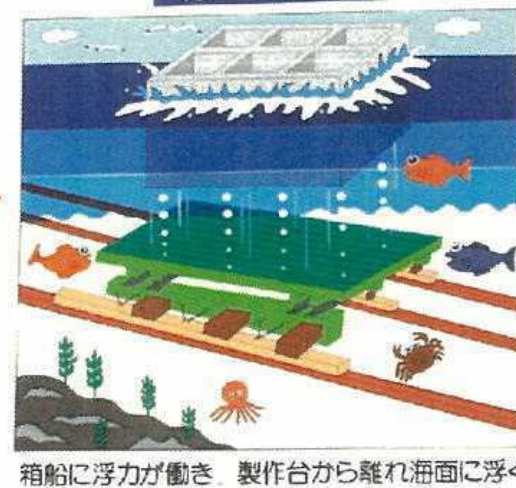


ロープを斧で切断すると“受け止め”が外れ、滑走始動する。

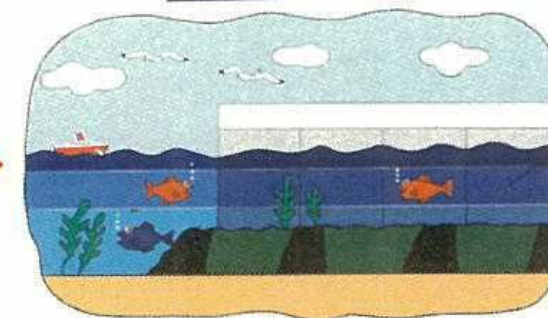
進水中



浮上



完成後の防波堤



浮いている箱船を船で所定の場所まで引き、中に水・砂を入れると防波堤が完成する。

作業場の構造と能力

構造形式/スリップ方式
 製作能力/製作最大寸法 長15.3m×幅10.0m×高12.0m
 ・製作最大重量 960t
 ・同時製作函数 2函

主施設要目/斜路の長さ 98.5m(木製)
 ・クレーン能力 5t吊り 1基
 函台重量 52t/函

当製作場の特徴

ここで使用している進水装置は昭和初期において、当時の最高技術をもって建造されたもので全国的に例をみない歴史的施設となっています。動力に頼ることなく、自然運動を利用した進水は猛スピードで箱船が海中を滑走し、迫力満点の光景を目にすることができます。

※ 絵は現地に掲示しているパネルを実写したもの